

義母が人妻トモダ
チと足しげく通っ
ている銭湯・・・
幽霊が出るという
噂（うわさ）

平坦な傾斜のコンクリート坂が街の東
の方にあった。

その先に真っ白下着の女子たちが毎晩
通う混浴銭湯があった。

周囲は森林・・・・・・・・すでに寂れた使
われていない自販機と何も置かれてい
ない倉庫がすぐそばにはあり、車の通り
もそこそこある。

そしてその隣には・・・・・・・・。

・・・・・・・・。

義母はカフェやスナックで出会いそこで仲良くなった人妻トモダチとその銭湯へ足しげく通っている・・・・・・・・。

昔はこの場所は寂れた空き地であったらしい。

脱いだばかりの白い下着の紐（ひも）を
温泉の廊下のロッカーへ・・・・・・・・。

女子たちはハダカになる。

廊下、そして玄関に入って左手奥にはマッサージチェアがあり、真っ白下着の女子たちで賑わっている。

以前のこの場所の空き地の静けさは今はもう跡形もない。

平日の夜・・・・リビングで・・・・。

俺はシャワー終わりソファに座ってスマホ画面を触っている義母に声をかけた。

格好はスウェット。もちろん中には・・・・。

「次の日曜日買い物に行かない？」

義母は小さなお尻と繋がった背中・・・
黒目のスウェットのウエストの裾の部
分を親指と人差し指で直しながら答え
た。

「人妻トモダチと最近通っている近くの銭湯があるの」

そして足を組んでセフレの姿を思い浮かべた。

「・・・・・・・・・・」

俺の頭の中にはエッチな義母の真っ白
下着が浮かんだ。

平穏な・・・・音の少ないリビング。

カーテンの向こうは変わらない穏やかな夜である。

そして深夜、ベッドの上でハダカ……。

シャワールーム……白いバスタブには湧いたばかりのお湯が入っている。

俺はママ友を思い出した。

ベッドの上でお尻の小さな黒まつ毛の
義母と結合し合いながら・・・・・・・・。

（体験版は以上になります。ご読了あり
がとうございました）